

(様式第1号)

研究No. (記載不要)	20 - 工学 - 5
-----------------	-------------

平成20年度配分 研究成果の概要

研究名	先端芸術とデザイン表現の研究				
配分を受けた特別研究費	デザイン学部長		特別研究費	<del>800</del> 675 千円	
研究者氏名 (代表者)	学部名	学科名	職	氏名	共同研究の場合の分担
	デザイン学部	X形造形学科	准教授	佐藤聖徳	金本総括 研究および調査
共同研究者	デザイン学部	X形造形学科	教授	宮内博実	研究および調査
	デザイン学部	X形造形学科	教授	長塚洋一	研究および調査
	デザイン学部	X形造形学科	准教授	羽田隆志	研究および調査
発表の方法 (予定で可)	1 紀要		号数	第 号 ( 年 月発行)	
	2 学会等での発表 学会等名:		発表日 (発表 予定日)	平成 年 月 日	
	③ その他 発表の方法: 調査記録を冊子としてまとめる		発表日 (発表 予定日)	平成22年 9月 日	

注:配分を受けた翌年度の6月末までに提出

(研究の目的等)

芸術系大学のデザイン分野での教育評価に関して、先端芸術とデザインの専攻性を統合した見識が示されている。これによってこれらの分野の評価は専攻を問わずに可能な独自の基礎で評価されること。昨今のXの急進的進歩で、これらの分野の垣根を越えた見識や評価が示されている。新しい判断基準を明確化し、教育現場での活用の実現を目指す。

(研究の実施方法等)

美大、芸術系大学、工学系大学でのデザイン、インスタレーション、造形制作などの比較研究をベースに、国産大学等でのXの進行、本大学での学生作品や課題内容の評価比較の検討を行う。

(得られた成果等)

Xの進行、造形学科会議、Xの研究会などで話し、提起している内容を中心としている。国産大学へのXの討議も行った。広島市立芸術大学のデザイン、園地芸術工科大学でのXの進行 (佐藤)

国産各分野の大学では同じ内容の課題を扱っていることが多く、かつ解決策の同質性を認めることができた。

今後のテーマを定めて、学内での共同研究者とともにもう一度議論を行い、総括する。